

第 2 分科会  
10  
和歌山県医師会

## 学校医による新成人への喫煙防止アプローチと アンケート調査結果の報告

和歌山県日高医師会

大谷 和正

和歌山県日高医師会学校医部会

家永 信彦、川口 精司、高辻 幹雄、寺田 泰治、中井 寛明、中島 彰一、  
西本 利吉、古田 浩太郎、村上 浩一、森本 善文、出口 信幸、塩路 信人、  
池田 明彦

御坊保健所

野尻 孝子

和歌山県立医科大学医学部公衆衛生学教室

北野 尚美、西尾 信宏、竹下 達也

### <背景と目的>

和歌山県日高医師会では1992年度から2004年度まで児童・生徒の生活習慣病予防検診事業に取り組んできた。2005年度からは、各学校医が担当校に出向いて喫煙防止授業を行う取り組みを始め、学校における喫煙防止対策に学校医が積極的に関わっている。前者については第25回本大会(1994年)から第41回(2010年)まで、17年にわたりその成績を逐次報告してきた。後者の取り組みの詳細についても、最近の本大会で報告している(第40回、42回)。

喫煙防止授業の内容を概括すると、2005年度は、対象38小学校のうち35小学校で実施し、2006年度からは中学校2校でも開始した。2008年度には、学校における学校医による喫煙防止の授業の実施は、小学校34校のうち33校(対象は5・6年生)、中学校22校のうち14校(対象は1・2・3年生)まで拡大した。2010年度は学校医による喫煙防止の授業実施率は、小学校で100%(33校/33校)、中学校で63.6%(14校/22校)となり、対象を高等学校に拡大した。

授業の教材は、和歌山禁煙教育ボランティアの会から提供されたCD-Rを一部修正しながら活用してきた。授業前には事前アンケートを実施して喫煙に関わる状況を把握し、授業後に書いてもらった感想文は冊子にして、関係者に配布している。

小学5年生を対象とした事前アンケートの結果から、家庭内に喫煙者のいる割合は、2005年度は63.2%(204/323)、2008年度は57.8%(367/635)と漸減傾向にあるものの依然高いことがわかった。

小学5年生の喫煙に対する意識は、家族内喫煙者の有無と関連があることもすでに報告した。

このような7年間の学校における喫煙防止に関する取り組みから、子どもに対する喫煙防止対策と併せて、保護者や教員の禁煙対策にも地域全体でより積極的に取り組む必要性が認識された。すなわち、学校保健に加え母子保健、産業保健、地域保健の密なる連携により地域全体で禁煙・防煙活動を展開することが求められている。

今回、これまでの学校保健における学校医による喫煙防止の取り組みを、成人期の生活習慣病予防、がん対策につなげる構想として、成人式における喫煙防止のアピールを開始した。日高医師会が学校医を担当している1市6町で開催された成人式と連動して、学校医が喫煙防止の呼びかけを行い、併せて新成人を対象とした喫煙に関わる実態を調査した。

### <対象と方法>

対象：日高医師会が小中学校の学校医を担当している1市6町の新成人

日時と場所：2012年1月4日と8日に各市町で実施された成人式会場

内容：

I) 無記名自記式質問紙調査による横断調査：

本人と家族の喫煙について、新成人から無記名で回答を得た。アンケートの配布や記入と回収の手順については、各市町の担当者と事前に調整を行って可能な範囲で最も望ましいと考えられた方法をとった。その結果、1町のみ郵送法

で調査を行い、1市5町は成人式会場で調査票を配布し当日に回収した。

本調査の研究計画は、和歌山県立医科大学が設置する倫理委員会で倫理審査を受け承認を得て実施した。

## II) 喫煙防止アピールタイム：

各市町の教育委員会の協力を得て、式典終了後に10分間前後をいただき、その地域を担当する学校医が、喫煙防止を中心に生活習慣が将来の健康に及ぼす影響について新成人に注意を喚起した。

## <結果>

### I) 新成人への喫煙に関する横断調査結果

#### 1) 回収率と有効回答率：

1市6町の新成人は960人で、このうち式典出席者782人を対象とした。調査票回収率は72.1%であった。性別、現在の喫煙の有無、生育家庭の喫煙者の有無の3項目に欠損値なく回答した524人(男290人、女234人)を有効回答(出席者の67.0%；新成人全体の54.6%)として以下の解析を行った。

#### 2) 回答者の喫煙経験：

(1) 今まで一口でもタバコを吸ったことがあると回答したのは、113人(21.6%)で、男78人(27.0%)、女35人(15.0%)であった。喫煙を初体験した最少年齢は6歳で、多い順に20歳23人、15歳17人、19歳12人、18歳11人、16歳8人、14歳5人の順で、26人は不明であった。

(2) 現在喫煙していると回答したのは68人(13.0%)で、男48人(16.6%)、女20人(8.5%)であった。喫煙開始時期を回答した51人の内訳は、小学から2人、中学から10人、高校から13人であった。1日10本以上の喫煙者は34人で、最大1日50本で、不明が14人であった。

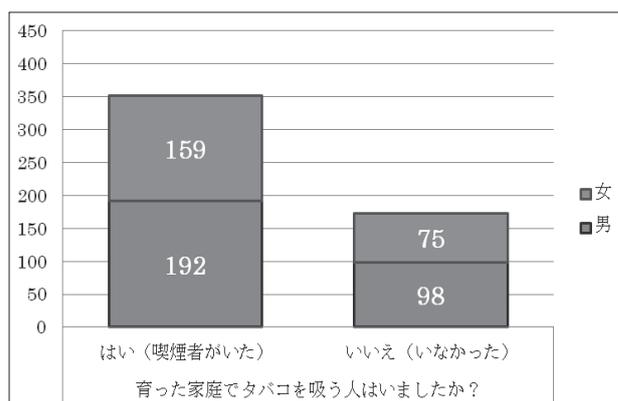
(3) 過去に喫煙したが現在は禁煙していると回答したのは31人(5.9%)で、男22人(7.6%)、女9人(3.8%)であった。

#### 3) 回答者の生育家庭の喫煙者の有無：

(1) 育った家庭にタバコを吸う人がいたかを尋ねたところ、351人(67.0%)は喫煙者がいたと回答した。

(2) 喫煙者の内訳(複数回答)は、父親277人(52.9%)、母親52人(9.9%)、祖父79人(15.1%)、祖母9

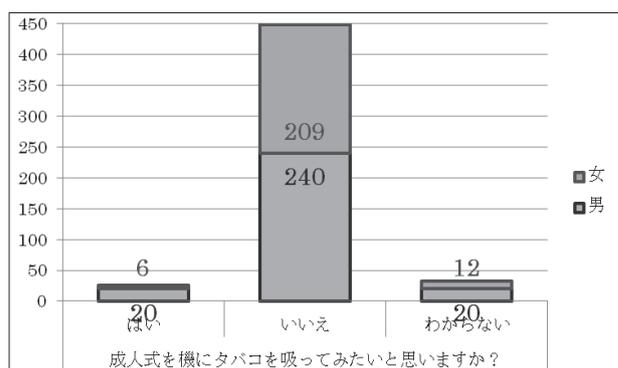
人(1.7%)、兄57人(10.9%)、姉13人(2.5%)であった。



#### 4) 回答者の喫煙に対する意識：

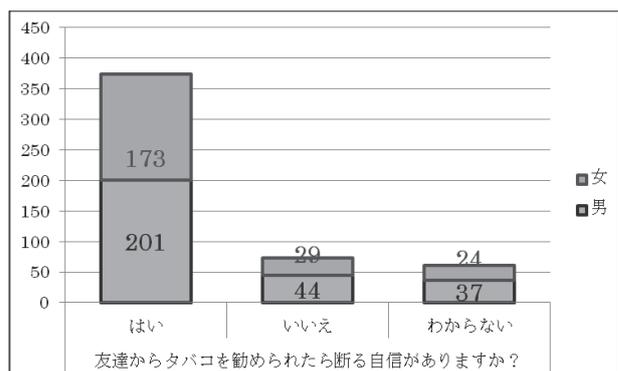
(1) 成人式を機にタバコを吸ってみたいと思いますか？

「いいえ」と回答したのは449人(88.6%)、「はい」は26人(5.1%)で男20人(7.1%)、女6人(2.6%)であった。「わからない」を選択したものが32人(6.3%)いた。



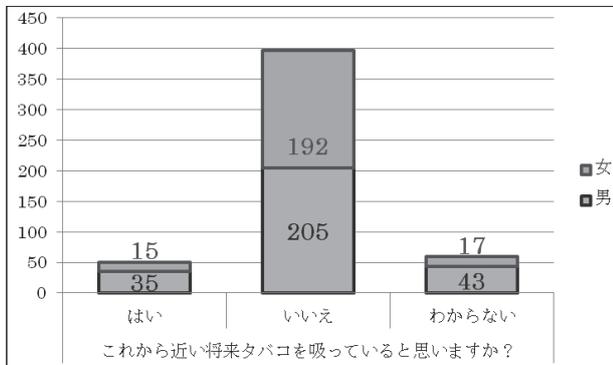
(2) 友達からタバコを勧められたら断る自信がありますか？

「はい」と回答したのは374人(73.6%)、「いいえ」は73人(14.4%)で男44人(15.6%)、女29人(12.8%)であった。「わからない」が61人(12.0%)いた。



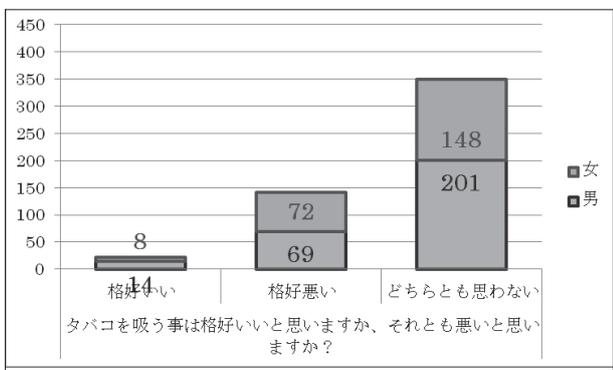
(3) これから近い将来タバコを吸っていると思いますか？

「いいえ」と回答したのは397人(78.3%)、「はい」は50人(9.9%)で男35人(12.4%)、女15人(6.7%)であった。「わからない」を選択したものが60人(11.8%)いた。



(4) タバコを吸う事は格好いいと思いますか、それとも悪いと思いますか？

「格好悪い」と回答したのは141人(27.5%)であった。「格好いい」を選択したものは22人(4.3%)で男14人(4.9%)、女8人(3.5%)であった。「どちらとも思わない」を選択したものが349人(68.2%)で男201人(70.8%)、女148人(64.9%)であった。



5) 家庭内喫煙者の有無と回答者の喫煙の関連：

- (1) 男女いずれにおいても、生育家庭に喫煙者がいたことは、これまでにタバコを一口でも吸った経験があることと有意な関連を認めた(カイ2乗検定：男  $P < 0.01$ , 女  $P < 0.05$ )。
- (2) 男女いずれにおいても、生育家庭に喫煙者がいたことは、現在喫煙していることと有意な関連を認めた(カイ2乗検定：男  $P < 0.01$ , 女  $P < 0.01$ )

男	タバコ一口吸った経験		計	
	なし	あり		
家庭内に喫煙者	なし	86(87.8%)	12(12.2%)	98
	あり	125(65.4%)	66(34.6%)	191
計		211(73.0%)	78(27.0%)	289

女	タバコ一口吸った経験		計	
	なし	あり		
家庭内に喫煙者	なし	70(93.3%)	5(6.7%)	75
	あり	129(81.1%)	30(18.9%)	159
計		199(85.0%)	35(15.0%)	234

(タバコ一口吸った経験について回答した男289人、女234人)

男	現在喫煙している		計	
	いいえ	はい		
家庭内に喫煙者	なし	95(96.9%)	3(3.1%)	98
	あり	147(76.6%)	45(23.4%)	192
計		242(83.4%)	48(16.6%)	290

女	現在喫煙している		計	
	いいえ	はい		
家庭内に喫煙者	なし	74(98.7%)	1(1.3%)	75
	あり	140(88.1%)	19(11.9%)	159
計		214(91.5%)	20(8.5%)	234

6) 非喫煙者(現在喫煙ありと過去に喫煙あり現在は禁煙を除外)の喫煙に対する意識：非喫煙者は425人(81.1%;男220人、女205人)であった。非喫煙者において家庭内喫煙者の有無および回答者の性別のそれぞれ2群間で、以下の喫煙に対する意識(1)(2)(3)(4)はいずれも有意な割合の差を認めなかった。

(1) 成人式を機にタバコを吸ってみたいと思いますか？

「はい」と回答したのは女1人で、「わからない」が10人(男4人、女6人)と合わせ、「いいえ」

以外は2.6% (11/422)であった。

- (2) 友達からタバコを勧められたら断る自信がありますか？

「いいえ」と回答したのは39人(男21人, 女18人)で、「わからない」が36人(男19人, 女17人)と合わせ、17.8% (75/421)は断る自信がなかった。

- (3) これから近い将来タバコを吸っていると思いますか？

「はい」と回答したのは5人(男1人, 女4人)で、「わからない」が42人(男29人, 女13人)と合わせ、「いいえ」以外は11.2% (47/420)であった。

- (4) タバコを吸う事は格好いいと思いますか、それとも悪いと思いますか？

「格好悪い」と回答したのは125人(29.8%)であった。「格好いい」は11人(2.6%)で男5人(2.3%)、女6人(3.0%)であった。「どちらとも思わない」を選択したものが283人(67.5%)で男156人(71.2%)、女127人(63.5%)であった。

- 7) 学校で喫煙防止の授業を受けた記憶：「学校で校医によるスライド映像を使った喫煙防止の授業を受けたことがありますか？」の質問に対して516人が回答した。

- (1) 「はい」と回答したのは313人(516人の60.7%)で男171人(59.6%)、女142人(62.0%)であった。「いいえ」が49人(9.5%)、「覚えていない」が154人(29.8%)であった。「はい」について、小学校で授業を受けたと回答したものが152人、中学校229人、高校128人であった(複数回答)。

- (2) 非喫煙者425人のうち回答したのは421人で、「はい」が255人(421人の60.6%;男129人, 女126人)、「いいえ」が41人(9.7%)、「覚えていない」が125人(29.7%)であった。非喫煙者かどうかの2群の間で、喫煙防止の授業の記憶に「はい」と「はい」以外(「いいえ」と「覚えていない」)の回答割合は男女いずれも有意差は認めなかった。

- (3) 現在喫煙者68人のうち回答したのは64人で、「はい」が36人(64人の56.3%;男27人, 女9人)、「いいえ」が8人(12.5%)、「覚えていない」が20人(31.3%)であった。現在喫煙の有無の2群の

間で、喫煙防止の授業の記憶の「はい」と「はい」以外の回答割合は男女いずれも有意差は認めなかった。

- (4) 「喫煙防止の授業を聴いてから、タバコを吸っていた家族にやめるように言った経験はありますか？」：回答者256人のうち「ある」と回答したのは61人であった。その内訳は、53人(61人の86.9%;男16人, 女37人)は非喫煙者、3人は喫煙者(男2人, 女1人)、5人(男1人, 女4人)は過去に吸っていたが現在は吸っていなかった。
- (5) 「あなたの言葉で実際にタバコをやめた人がいれば教えて下さい。それは誰ですか」(複数回答)：33人が回答し、その内訳は父親20人、母親0人、兄1人、姉0人、祖父2人、祖母0人、その他4人(友人2人, 本人1人, 記載なし1人)であった。

## II) 成人式での喫煙防止アピール

成人式において喫煙防止のアピールを行う提案は、日高医師会が学校医を担当している1市6町のすべてでその趣旨が受け入れられ、2012年1月の成人式から実施可能となった。

具体的な調整は、各市町の学校で喫煙防止の授業を行っている学校医のうち今回の成人式を担当する2名が、各市町教育委員会の成人式担当者との間で進めた。成人式のスタイルはそれぞれの市町で特色があり、会場の仕様も異なっていたため、担当した医師会員が教育委員会の担当者との調整と工夫の結果、それぞれに試行的要素を含んだ喫煙防止のアピールがなされた。

後日、各市町の成人式に出向いた医師会員と教育委員会の担当者に対して、今回実施するにあたっての準備、良かったこと、困難を感じたこと、工夫点、次年度に向けての意見や感想など、自由記載形式の記名式アンケートを行った。記述内容から、成人式での喫煙防止アピールの取り組みは、いずれの市町の教育委員会においても肯定的に捉えられたことが伺えた。

本報告では、初年度の取り組みの具体的な様子が伝わるよう、当日の会場の様子の画像や地方紙に掲載された記事なども提示して報告する。

### <まとめ>

1. 和歌山県日高医師会が学校医を担当する1市6町

において、2012年1月の成人式で学校医が新成人を対象として喫煙に関する実態調査を行い、喫煙防止のアピールを実施した。

2. 無記名自記式質問紙調査で成人式出席者の67.0%（新成人全体の54.6%）から有効回答が得られ、13%（男16.6%、女8.5%）が現在喫煙していた。過去に喫煙し現在は禁煙していたのは5.9%（男7.6%、女3.8%）であった。
3. 生育家庭に喫煙者がいたのは67.0%で、喫煙者がいたことは新成人の喫煙歴および現在喫煙習慣があることと有意な関連を認めた。
4. 非喫煙のグループにおいて、将来の喫煙の危険性が伺える回答を認めた。また、喫煙に負のイメージを持つ割合は高いとは言えなかった。
5. 学校医によるスライド映像を使った喫煙防止の授業を受けたことがあると60.7%が回答し、喫煙経験の有無によって割合に有意な差は認めなかった。なお、今回の対象者は、日高医師会が小中学校での学校医による喫煙防止の授業に取り組む以前の学年であったことから、養護教諭等による学校保健の取り組みで実施された喫煙防止の授業を受けた記憶について回答したものと推測した。
6. 各市町の小中学校の学校医が、教育委員会の協力を得て調整と工夫をした結果、成人式当日に会場において10分間前後を確保して、新成人を対象とした喫煙防止のアピールを実践できた。

#### <課題と今後の方向性>

2012年9月8日に「平成23年度日高地方における喫煙防止と生活習慣関連疾患予防のための成人式アンケート事業報告会」を開催した。この会は、日高医師会の学校医、各市町教育委員会の成人式担当者、各市町の保健師、管轄保健所の保健師、大学公衆衛生学講座の小児科医と公衆衛生学会認定専門家が一同に会する多職種の見聞交換会である。2012年1月の上記の結果を各市町別の情報と併せて共有した。2013年1月の成人式においても新成人を対象とした喫煙に関する横断調査と喫煙防止のアピールの実施が見込めており、日高地域全体としての枠組みと各市町で柔軟に対応する部分とを見直すことで今後の方向性を検討した。

地域全体の喫煙率の低下、特に小中学生の喫煙体験の予防には、学校保健から地域保健への一貫性と連続性が必要であり、日高医師会では学校医による新成人への喫煙防止のアピールを継続していく考えである。

#### <謝辞>

成人式での喫煙に関する調査と喫煙防止の活動にあたり、御坊市、印南町、日高町、日高川町、みなべ町、美浜町、由良町の教育委員会はじめ関係者の皆様からいただいたご助言とご協力に感謝申し上げます。